福岡県出身の『流れる』橋本将英監督 &『ひこうき雲』柴口勲監督が来場!

高校に映画同好会を立ち上げ、31年ぶりのPFF高校生入選監督となった橋本監督と、
40代で映画をつくりはじめ、母校の中学生をスタッフ&キャストに迎えた柴口監督。
そんな対照的な2監督が来場するPFF in 福岡。おふたりからのメッセージをご紹介します。

『流れる』は僕の通っている高校の近くにある高良川公園で撮影しました。幸運にもPFFで入選して、多くの方々に作品をお見せできるのは本当に嬉しいことです。今度は僕の地元である福岡で上映して頂けるとのことで、何だか恥ずかしい気もしますが、皆さんからのご意見やご感想を今後の映画制作に活かしたいと思っています。ぜひご来場下さい。

監督来場予定

『ひこうき雲』は近所のおじさんが下関の母校を訪ねて生徒と一緒に作った映画です。実際にキャストもスタッフも27名の中学生で構成されています。まるで荒野を中古車で横断するような道のりでした。無鉄砲で甘っちょろいけれど、少しだけ革命的な僕らの夏の旅。そのような日々を丸ごと真空パックした青春映画です。

4.26[日] 14:00~
監督:橋本将英

4.25[土] 15:30~
監督:柴口 勲

4.25[土] 18:00~
[招待作品部門]
ワンピース20周年記念企画「ようこそワンピース体験へ!」

「ワンピース」とは矢口史靖、鈴木卓爾の2監督が、職業映画監督として歩き始めたばかりの「暇で金が無い」1994年に、自分たちの「映画脳」を鍛えるために編み出した、驚異のミニマル映画制作術の名前。
家庭用ビデオカメラを固定した画面の中で、どれだけ面白い映画をつくれるか?工夫とアイデアを満開に、簡単そうに見えて、底なしの可能性を秘めた楽しい短編たちを、2監督がベストセレクションにして贈ります。

現在までに完成した62作品の中から、2014年夏に20周年記念として撮りおろした新作4作品を含む10作品を上映。更に、東京会場での鈴木&矢口監督トーク映像もあり!即役立つヒント満載のプログラムです。

監督:**矢口史靖**(やぐち・しのぶ)

1967年生まれ。『ウォーターボーイズ』で注目されて以降、最新作『WOOD JOB!~神去なあなあ日常~』まで、第一線を走り続けている。

『カメレオンマン』

監督:**鈴木卓爾**(すずき・たくじ)

1967年生まれ。『ゲゲゲの女房』、『楽隊のうさぎ』などを監督する傍ら、『CUT』(アミール・ナデリ監督)などで、俳優としても活躍。

『待つこと眩し』

Ticket チケット情報

前売券はチケットぴあにて2月21日[土]朝10時より発売!
当日券も販売します。【全席自由席】
[Pコード:465-998]

	1回券	3回券
前売券	700円	1,800円
当日券	900円	2,400円
当日学生券	600円	——

[前売券の販売について]
※会場での前売券販売はありません。ご注意ください。
- チケットぴあ、サークルK・サンクス、セブン-イレブンの店舗で直接購入
  ※4月23日(木)まで購入可能です。発券手数料およびシステム使用料として、108円/枚がかかります。
- インターネットにて購入 http://pia.jp/t/pff/
  ※4月23日(木)まで購入可能です。発券手数料およびシステム使用料として、324円/枚がかかります。
- 電話予約にて購入 チケットぴあ音声認識予約:0570-02-9999
  ※4月20日(月)まで購入可能です。発券手数料およびシステム使用料として、324円/枚がかかります。

[当日券の販売について]
- 当日券は各プログラムの1時間前から販売します。
- 当日学生券でのご入場には、学生証の提示が必要です。

コンペティション部門
PFF AWARD 2015 作品募集

映画ができたらPFFに応募しよう!

PFFは、「映画の新しい才能の発見と育成」をテーマに、毎年2月~3月にかけて、作品の募集を行っています。本年度の「PFFアワード2015」はただいま作品受付中! ご応募お待ちしております!
▶応募締め切りは、2015年3月23日[月]です(当日消印有効)。

ラストチャンス!

福岡県出身の2監督も来場!

第36回ぴあフィルムフェスティバル

福岡 **2015/04/24[金]-04/26[日]**
福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

http://pff.jp/36th/

主催:PFFパートナーズ ぴあ ホリプロ NIKKATSU
UNIJAPAN 公益財団法人ユニジャパン/ 福岡市総合図書館/映像ホール・シネラ実行委員会
特別助成:一般社団法人 映画演劇文化協会 特別協賛:SEGA SAMMY GROUP
CoFesta
PFFサポーターズ:KLOCKWORX/TOPPAN/BS日本映画専門チャンネル/ROBOT/Breath/夜景検定/朝日新聞
後援:一般社団法人 日本映画製作者連盟/NPO法人 映像産業振興機構(VIPO)/協同組合 日本映画監督協会
協力:早稲田大学/日本映画ペンクラブ

[コンペティション部門]

PFF Award 2014

528作品の応募作を、約4ヶ月かけて審査の後、21作品を入選作品に決定。福岡会場では3日間で各作品1度ずつ上映します。

あなたが決めるPFF福岡賞!

ご来場いただいたお客様の投票により、「福岡グランプリ」を決定します。
福岡では、果たしてどの作品が多くの支持を得るのか？ ぜひ投票してください！

最終審査員による、グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞は既に決定しました。
本年の最終審査員は、この5名です。
最終審査員(敬称略)：柳島克己(撮影監督)、森重晃(映画プロデューサー)、ヤン・ヨンヒ(映画監督)、内田けんじ(映画監督)、成宮寛貴(俳優)

※監督の年齢は応募時のもの／地名は出身地です。
※各プログラムの開場は開演時間の15分前を予定。
※やむを得ない事情により、プログラムおよび来場ゲストが変更になる場合もございます。

4.24[金] 13:00~

『波伝谷に生きる人びと』134分 日本映画ペンクラブ賞

監督：我妻和樹(28歳/宮城県出身)
東北学院大学文学部史学科卒業

カメラは寄り添った、3.11のあの日も
南三陸の小さな漁村。民俗学の調査でこの土地を訪れた監督は、伝統的な共同体が今も継承される波伝谷に惹かれカメラを向ける。完成までに要した9年もの歳月が、もはや撮られることを意識しない自然体の人々を映し出す。

『小さな庭園』12分

監督：斎藤俊介(29歳/千葉県出身) バンクーバー国際映画祭(カナダ)出品
多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業

想像と創造が連なる不思議なアニメーション
ある庭園で目を覚ました、片眼の主人公。小さな世界の壮大な物語がはじまる。科学的素養の深さを感じる独特な造形のアニメーションに、生命誕生や宇宙創世を匂わせるイメージ。その世界感に思わず引き込まれる。

16:00~

『乱波』5分 準グランプリ

監督：中島悠喜(23歳/東京都出身) 東京国際映画祭、バンクーバー国際映画祭(カナダ)出品
東京工芸大学芸術学部アニメーション学科卒業

息も吐かせぬ攻防！驚嘆の忍者アニメーション
一瞬で明暗が決する命のやり取りの緊張感と、躍動するアクション！ どの場面も格好良い、縦横無尽の構図はアニメならでは。忠誠？裏切り？敵？味方？ひりつくような忍者の世界をたった5分間で見事に描き切る。

『丸』89分

監督：鈴木洋平(29歳/茨城県出身) バンクーバー国際映画祭(カナダ)出品
多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業

謎の球体の出現が、SF的想像力を刺激する
民家の一室に突如出現した謎の球体"丸"。それを見たものは文字通り身体が静止してしまう。ごく普通の一家に起こる不条理な出来事。個性的な登場人物たち、ちょっと変な間取り…現実から半歩だけズレた世界に魅入られる。

18:30~

『彼は月へ行った』19分

監督：藤村明世(23歳/東京都出身)
明治学院大学文学部芸術学科映像芸術学系列卒業

大事な人を亡くした時、人はどうそれに立ち向かうのか？
親友・優一を亡くし心を閉ざした中学生の順。心の拠り所はかつて優一と遊んだトランシーバーだけ。ある日、そこから女の子の声が聞こえてくる。繊細で瑞々しい映像は、ソフィア・コッポラの映画のように美しい。

『モーターズ』83分 審査員特別賞／観客賞(神戸)

監督：渡辺大知(23歳/兵庫県出身) 東京国際映画祭、香港国際映画祭出品
東京造形大学造形学部デザイン学科映画専攻在学中

不器用で愛らしい、男たちの人間模様
田舎の自動車整備工場を舞台に、パッとしない工員たちの日々を描く。うだつの上がらない整備工・田中(渋川清彦)が、段々と繊細で魅力的に見えてくる不思議。この場所では今日も、永遠の少年たちがたむろしている。

4.25[土] 10:30~

『還るばしょ』36分

監督：塚田万理奈(22歳/長野県出身)
日本大学芸術学部映画学科監督コース卒業

20代の女性にしか描きえない心の揺らぎ
淡々とした毎日に幸せも不幸せも感じない歯科衛生士のちかげ。自分と正反対の姉と久しぶりに時を過ごす中で、彼女の何かが少しずつほぐれていく。社会と関わり始める20代前半に誰もが感じる心のずれを表現し賛同を得た。

『独裁者、古賀。』79分 エンタテインメント賞(ホリプロ賞)

監督：飯塚俊光(33歳/神奈川県出身)
専修大学経営学部情報管理学科卒業

青春の痛みと希望が詰まったエンタテインメント
いつもクラスでいじめられている古賀。ある日、古賀をかばったために、女子生徒の副島がいじめの標的となり、学校に来なくなってしまう…。いじめを題材にしながら、意表をつく展開で、上映後に拍手が起こる回も。

13:00~

『Super Tandem』40分

監督：小林勇貴(23歳/静岡県出身)
東京デザイン専門学校グラフィックデザイン科卒業

新時代！ 感じたことのない熱烈なエネルギー
自警団を結成した大石と悪友荻田。万引き犯を成敗するも、待ち受けるのは暴走族の復讐劇だった。監督の地元・富士宮で撮影された本作に登場するヤンキーはすべて本物。自主映画でこんなカーチェイス観たことない！

『ガンバレとかうるせぇ』70分 映画ファン賞(びあ映画生活賞)／観客賞(東京・名古屋)

監督：佐藤快磨(24歳/秋田県出身) 釜山国際映画祭(韓国)出品
ニューシネマワークショップ 映画クリエイター科卒業

主演女優賞はこの人に、という声多数の存在感に注目
サッカー部マネージャーの菜津は、夏の選手権敗退後も引退せず冬まで続けることを決めるが、選手は一様に冷ややかだ。それでも主将の豪だけは変わらないと信じていたが‥。キャスト陣の熱演が国内外で大反響を呼んだ。

15:30~

『暁の石』30分

監督：清原 惟(21歳/東京都出身)／**飛田みちる**(21歳/茨城県出身)
武蔵野美術大学映像学科在学中

フランス映画の軽やかさと土着的な日本感覚の不思議な融合
3か月前に母が失踪した佳子は不思議な沼で幼馴染の光子と再会する。二人は昔のように図書館や「神殿」と呼ぶ廃屋などで無為の戯れに興じ、モラトリアムな夏を過ごす。フランス映画を観ているような不思議な感覚が新しい。

『埋み火』32分 審査員特別賞

監督：山内季子(24歳/青森県出身) 東京国際映画祭出品
東放学園映画専門学校映画制作科卒業

介護に追われる女性を、監督自身の体験をもとに描く
母親の介護をしながら田舎町のスーパーで魚をおろし続ける比富美。東京から戻ってきた大輔と再会することで彼女の中の静かな炎が再燃する。介護問題をベースに、女性のリアルな心の機微を丹念に掬い取った脚本の妙。

『ひこうき雲』25分 監督来場予定

監督：柴口 勲(46歳/福岡県出身)
山口県立下関中央工業高等学校卒業

中学生27人と作り上げた瑞々しい群像劇
夏休みを明日に控えた朝、修学旅行の予定表が何者かに破り捨てられる…。生徒が生徒役を、教師が教師役を演じる本作は、それぞれのキャラクターが際立ち、一人ひとりの生身の魅力が画面いっぱいに溢れ出す。

18:00~

[招待作品部門]

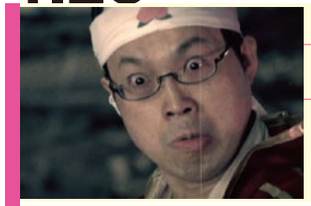
ワンピース20周年記念企画
「ようこそワンピース体験へ！」

矢口史靖監督&鈴木卓爾監督によるベストセレクション6作品+2014年撮り下ろしの新作4作品も上映。 詳しくは、中折り面をチェック！

新作撮影中の矢口監督(左)と鈴木監督(右)

4.26[日] 11:30~

『ネオ桃太郎』20分 ジェムストーン賞(日活賞)



監督：小田 学(33歳/埼玉県出身)
日活芸術学院27期演出コース卒業

流れるような掛け合いが爆発する、全力コメディ
新作『ネオ桃太郎』を撮影中の映画サークル部員たち。こだわりの強い監督に、役者のエゴ、さらにトラブルが重なり、現場は不穏な空気に…。劇団も主宰する小田監督がコメディ映画に果敢に挑戦！ スピード感溢れる緻密な演出に注目。

『沖縄/大和』98分

監督：比嘉賢多(22歳/沖縄県出身) なら国際映画祭出品
和光大学表現学部総合文化学科卒業

揺れ動く監督の心の向こうに現在の沖縄が見えてくる
沖縄に生まれ育った監督は、本土に渡った後初めて「沖縄」を意識し、地元でのドキュメンタリー制作を決意する。様々な立場の人々を取材することで揺れ動く監督の視点から、ニュースでは見られない沖縄の姿が見事に現れる。

14:00~

『怪獣の日』30分 観客賞(京都)

監督：中川和博(27歳/奈良県出身)
日本大学芸術学部映画学科監督コース卒業

特撮映画愛溢れる現代の怪獣映画
太平洋沖に突如出現した怪獣が駆逐され、その巨体が漂着した町。様々な議論と対立が勃発し混迷を極めるが‥。SFでしか扱えない硬派な社会提起を込め、現代の若手監督が仲間と技術を持ち寄り撮りあげた本格的怪獣映画。

『人に非ず』65分 審査員特別賞

監督：矢川健吾(26歳/神奈川県出身) 東京国際映画祭出品
多摩美術大学映像演劇学科卒業

左右田次郎、お前は誰だ！
ある夏の日、小笠原の美しいリゾートホテルに従業員としてやってきた青年・左右田。彼は、陽光の下の美しい自然とは対照的に、不気味に静まり返ったホテルで夜勤を務めながら、閉鎖的な島の裏の顔をじっと観察する…。

『流れる』13分 監督来場予定

監督：橋本将英(16歳/福岡県出身)
久留米大学附設高等学校在学中

16歳の高校生監督が描く、少年と石の不思議な関係
公園で暮らす少年は、ある時、傍らに置かれた小石の存在に気付く。以来、少年は小石と共に時を過ごす。しかし、気が付くと小石は突然消えていた。自ら映画同好会を立ち上げた監督が、少年と石の心の交流を、映像の力で見事に表現。

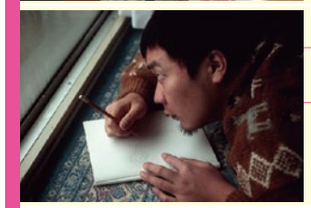
16:30~

『反駁』51分

監督：伊之沙紀(30歳/神奈川県出身)
映画美学校フィクションコース高等科卒業

人の心の暗い穴を覗く、現代社会への問題提起
通り魔を目撃した4人の小学生。過干渉な母親と受験地獄の間で窒息しそうになっていた沙羅の目には、犯人がとても自由に写った。大学であの時の3人と再会した彼女は…。悪意の連鎖の果てに待ち受ける驚愕のエンディング！

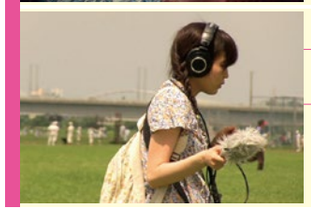
『多摩丘陵の熊』32分



監督：岡 真太郎(29歳/千葉県出身)
東放学園映画専門学校デジタル映画科卒業

季節感や体温から感じる、やさしい希望
多摩丘陵で2人きりで暮らす兄と弟。兄は恋人が浮気相手と旅行中に事故死したことが原因で失声症となる。弟は兄の回復を待つが…。詩のような言葉と映像の卓越したセンスが光る一本。監督はキャストとしても参加している。

『ナイアガラ』27分 グランプリ



監督：早川千絵(37歳/東京都出身) カンヌ国際映画祭(フランス)、バンクーバー国際映画祭(カナダ)ほか多数出品
スクール・オブ・ビジュアル・アーツ卒業

誰かとつながることを瑞々しく繊細に描く
養護施設で育った18歳のやまめは、死刑囚の祖父の存在を知らされる。やがて、やまめは施設を出て、認知症の祖母と暮らすことに。不思議なほど前向きな主人公に、心が動かされる作品。カンヌをはじめ、世界中の映画祭が絶賛。

監督の来場予定およびゲスト来場の追加情報は随時HPで発表します。 第36回 PFF 検索